

河合澄子の舞踊観と女性観

—1920年代の浅草の軽演劇における女性ダンサーの意識—

早稲田大学 杉山千鶴

1. 研究目的及び方法

1920年代において浅草の軽演劇で上演された舞踊は、芸術を指向したものの、女性性や性的な魅力を強調したものの、2つの系譜からなる。本研究は、1920年代という婦人解放の運動化の進んだ時期に、後者の系譜の女性ダンサーが抱いた舞踊観と女性観を明らかにすることを目的とする。その手がかりとして、1920年代¹⁾を通じて軽演劇に活動の認められる、河合澄子を事例とした。

まず都新聞より、浅草に限定して、河合の活動を追跡する。次に資料を元に、舞台上・外の河合像を浮き彫りにし、これより、河合の舞踊観と女性観を明らかにした。

2. 結果及び考察

(1) 河合澄子の活動歴

河合は新宿病院の看護婦を務めた後、ローヤル館や高木徳子一座に参加した。そして1917年11月の東京歌劇座の旗揚げ公演で浅草に登場する。この後独立し、1918年3月、自ら座長となり日本バンドマン一座を旗揚げするが、河合一人の人気に頼った歌劇団だったために、結局地方巡演に出て解散し、河合は浅草での活動を中断する。次に浅草に登場するのは、関東大震災以後の1924年10月の森歌劇団の旗揚げ公演である。この後は浅草オペラでの活動は認められない。1927・28年には浅草に現れず、以後は河合澄子舞踊団を率い、1929～30年は映画館アトラクションに、1931～32年は浅草レビューに出演、1933年の帝京座への出演を以て、1920年代の活動を締めくくっている。

(2) 舞台上の河合澄子

河合が浅草以前に所属したローヤル館では、G. V. ローシーが、毎朝9時～夕刻まで声楽・舞踊・演技を、同じく高木徳子一座では高木が舞踊を、徹底的に指導していた。この双方に在籍したにも関わらず、河合は、声楽・舞踊・演技のいずれも不得手だった。それが東京歌劇座の一座員として浅草に登場するや、「ダンスの天才」の沢モリノと、日本館の人気を二分するまでになる。河合は、当世風の美人と言われた容貌と豊満な体型を活かし、媚びと愛嬌を振りまき、挑発的な目付きと身振りで、学生を中心にファンを掴んだ。そして一オペラ女優として名を成すのである。1929年以降の河合は、揃うことよりもエロを重視した、エロ・ダンスやエロ・レビューを上演している。

河合は、オペラ女優として必要な素養がない分、自身の容貌や体型を大いに活用し、女性性を武器に、浅草オペラに名をとどろかすまでに成り上がるや、1920年代の軽演劇を、この路線で突っ走った。舞台上に立った河合は、その肉感的な体型、女性性の大放出、嬌態の舞踊を披露し、存在するだけでエロそのものであるという人物像を、観客の内に形成したと言える。

(3) 舞台外の河合澄子

河合は、東京歌劇座時代には、楽屋に学生を入りさせたため、警視庁の注目を浴びた。そこへ後援会の会員が多数検挙される事件が発生し、河合は「問題女優」として一気に名を挙げた。これを機に「問題女優」の華々しい遍歴が続々と暴露され、「代表的発展家」と言う称号が与えられた。しかし河合にとっては、これらのゴシップや称号は、むしろ話題性として、素養以上に必要なものであった。その後は、舞台外のゴシップに関する記事はなく、浅草オペラの初期の内に、舞台上ではエロそのものの河合澄子は、舞台外では発展家である、と言う人物像が出来上がり、それは1920年代を通じ効力を発揮し続けたのである。

3. 結論・河合澄子の舞踊観と女性観

河合が雑誌・新聞を賑わしたのは、検挙事件以後であり、浅草外での活動時期に相当する。すなわち、ごく限定された初期の河合が、「河合澄子」という人物像となったのであり、1920年代を通じて活き続けたのである。この路線からは、河合が浅草オペラの女優として成功するには、技量よりもファンの支持を得ることにあると考えたこと、また観客の判断によって隆盛と衰退が決定するという、浅草の土地柄をよく把握していたことが窺われる。そして大勢の支持を得ることは、軽演劇の女優・ダンサーとして、歌劇団・舞踊団の主役級になれること、そしてそれにより生活するに十分な給料を確保できるという背景もあった。

河合にとって舞踊とは、男性支持者を得る手段であり、その容貌と体型の活用という点においては、声楽や演技以上に効果的である、ということに過ぎなかったのである。

そして河合は舞台上では女性性を、舞台外では性そのものを武器にした。河合にとって女性とは、男性に支配・束縛される存在ではなく、女性ならではの特性によって男性を操ることができ、そして経済的な面に関しては、男性への依存によってはじめて自立が可能となる存在だった。このことは、職業婦人が結局は独身の低賃金労働者であった、という限界と共通するのである。

1) 本研究では、1920年代を1917年1月～1933年3月とする。